

■ 本足場時の積載荷重(標準組みの場合)

1層1スパンあたり	
同じ層での積載が連続スパンになる場合	250kg
同じ層での積載が連続スパンにならない場合	400kg

- 足場の幅600mmの場合、500幅の床付き布巾を使用すること
- 梁枠で構成された開口部上方の足場の全積載荷重は800kgまでとする
- 同一スパン内の積載は2層までとする
- 足場には最大積載荷重を表示すること
- 積載荷重は積載する床付き布巾の許容荷重を超えないこと

■ 支柱

品番	質量(kg)
XP3600SJ	12.6
XP2700SJ	10.1
XP1800SJ	6.7
XP1350SJ	5.5
XP900SJ	4.0
XP675SJ	3.4
XP450SJ	2.2

■ 連結ピン

※構成部材
XPJ25SS
VP7

品番	質量(kg)
XPJ25SS	0.9

■ 根がらみ支柱

品番	質量(kg)
XP450S	
XP225S	
XP450S	2.3
XP225S	1.4

■ 布材

XR18S, XR15S, XR12S, XR09S, XR06M, XR360A, XR03S

■ つなぎ材

XRC153.S

品番	質量(kg)
XR18S	4.3
XR15S	3.7
XR12S	3.0
XR09S	2.3
XR06M	1.6
XR360A	1.2
XR03S	1.0
つなぎ材 XRC153.S	0.6

■ 階段手すり

品番	質量(kg)
XKRM18S	3.3

■ 階段受け

XKKM12S, XKKM09S, XKKM06S

品番	質量(kg)
XKKM12S	3.5
XKKM09S	2.8
XKKM06S	2.1

■ 先端くさびブラケット

XBM50MM, XB240SS

品番	質量(kg)
XBM50MM	2.3
XB240SS	1.6

■ はね出しブラケット

XBM50HSJ, XB240HSJ

品番	質量(kg)
XBM50HSJ	3.8
XB240HSJ	3.1

■ 先行手すり

XXM18S, XXM15S, XXM12S, XXM09S, XXM06S

品番	質量(kg)
XXM18S	6.8
XXM15S	5.9
XXM12S	5.2
XXM09S	4.4
XXM06S	3.8

ALB足場

■ 梁枠

梁枠は布材と同じように支柱プレートに直接緊結。

隅梁受けや梁渡しは不要です。

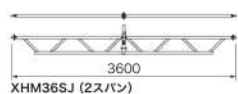
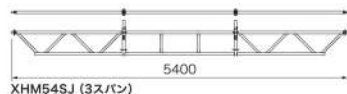
梁枠には支柱を挿すことが可能で手すりも簡単に取付けられます。

梁枠はスパン方向のみでなく、梁間方向にも取付け可能。

外部足場の開口だけでなく、棚足場や安全通路にも用途が広がります。

品番	質量(kg)
XHM54SJ	36.5
XHM36SJ	21.9

※梁枠を設置する場合は必ず組立基準・使用基準をお読みください。



■ 伸縮ブラケット



XBS500HSJ

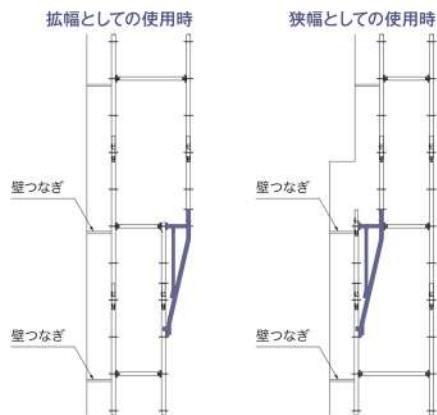
品番	質量(kg)
XBS500HSJ	4.3

■ 拡幅狭幅兼用ブラケット



品番	質量(kg)
XPCM300SJ	8.1

■ 拡幅狭幅兼用ブラケットの使用例



拡幅狭幅兼用ブラケットは独自の発想により1種類で拡幅と狭幅のどちらにも使用可能。

従来のくさび緊結足場の拡幅は下からの支柱をそのまま拡幅上にも伸ばす必要がありましたが、アルパトロスの拡幅狭幅兼用ブラケットは、拡幅された足場を幅いっぱい有効に使うことができます。

もちろん単管・クランプの追加補強も不要です。

※拡幅狭幅兼用ブラケットをコーナーの支柱に2方向に取り付けることはできません。

■ アルミ朝顔(落下防護棚) 仮設工業会システム承認



アルパトロスは金具のみ専用金具に替えるだけで枠組足場用のアルミ朝顔が使用可能。

■ 荷受けフォーム(荷受構台) 仮設工業会システム承認



アルパトロスはRC工事の必需品、ユニット式の専用荷受構台も品揃え。

型枠材料の盛替え、仕上げ材の搬入も簡単です。枠組足場用と同様、もちろんクレーンを使って丸ごと上層階へ転用可能です。最大3スパンまで設置可能です。

くさび緊結式足場は枠組足場とは異なる構造上の特徴があるため、枠組足場用のユニット式荷受けステージをそのまま取り付けることはできません。アルパトロスの荷受けフォームは数多くの荷重実験と改良を重ね、くさび緊結式足場に安全・安定して使えるシステムとして開発されました。



備忘録に鉛直荷重加えた過酷な実大実験
仮設工業会東京試験所



大組み・大払いでさらに安全性と施工性アップ

信頼性と施工性に優れた大組みブロック

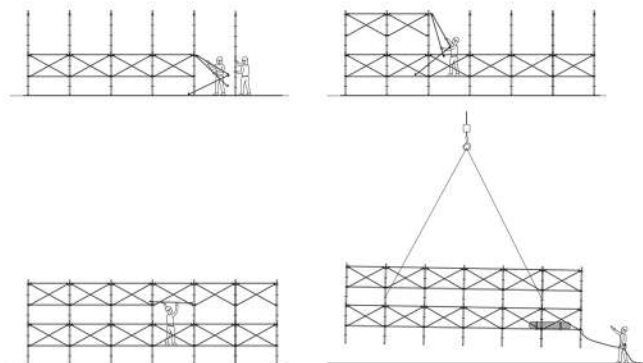
足場ブロックを、L3600mmの支柱で2層(最大6スパン)ブロックとし、地組みで高所作業を大幅に減らすことが可能となります。もちろん取り付け側でもつぎ目となるスパンは手すり先行工法で安全に部材を組み立てることが可能です。

アルパトロスでつくられたブロックには高い剛性があるため吊り上げ時のたわみや両端の垂れもほとんどありません。さらには連結ピンが溶接で固定されていないため、吊ったブロックの支柱挿入がスムーズに行えます。

アルパトロスの支柱プレートは頑丈。吊りフックや長シャックルを直接支柱に掛けることが可能です。



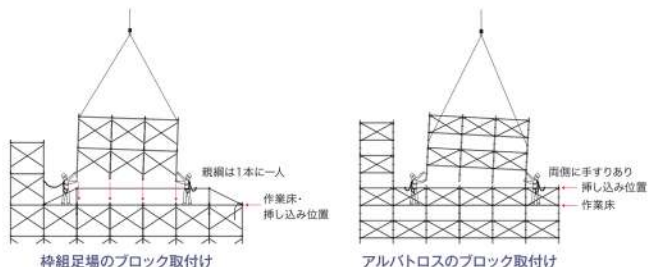
アルパトロスの作業床は1層分の支柱長さの中間部に位置し、また上層の手すりは手すり先行工法で取り付けることができます。このため部材取付作業は地上と高さ約1mの作業床上から全てを行うことが可能です。



アルパトロスのブロック地組み手順

枠組足場の枠組工法は足場取り付け側は作業床より上にまだ建枠や筋かいがなく、取付け作業には親綱等の別途墜落防止設備が必要です。この場合、親綱1本には1名の作業員しか安全帯を使用することができません。

また据置き型手すり枠の枠組足場においても、建物側にはまだ手すりがなく安全帯の常時使用が必要です。支柱の継ぎ位置も足元であるため、挿入作業も立ったり屈んだりする必要があります。



これに対しアルパトロスの大組工法はブロック取り付け位置の作業床にはすでに手すりのある状態となっており、より安全かつ効率的にブロック取り付け作業を行うことが可能です。支柱の継ぎ位置も腰の高さであるため、挿入作業も立ったまま容易に行えます。



強化方づえを使ってさらに多様なニーズに対応

独自の発想のマルチな部材。くさび緊結式足場の弱点であった梁間方向の剛性を大幅にアップさせ支柱の座屈強度を上げることができ、揺れや水平力にも強くなります。

コンパクトな形状でも支柱の許容支持力12.5kN → 最大23.5kNに大幅アップ!! (本足場・両面先行手すり)

強化方づえは支柱と布材を同時に簡単に補強できる独自の専用機材です。

棚足場(ステージ)の腕木の補強のみならず、強化方づえを取り付けることで支柱の座屈強度を大幅にアップすることが出来ます。しかも取り付けはハンマー1本でワンタッチ後付け可能。

床付き布枠の掛かった状態でも簡単に取り付けでき、必要な部分、必要な期間だけ強化を行うことが可能です。足場の部分的補強、通行しやすい支保工、棚足場、ローリングタワー、さらには50~60m超えの超高層足場の支柱補強と多彩なニーズに応えることができます。

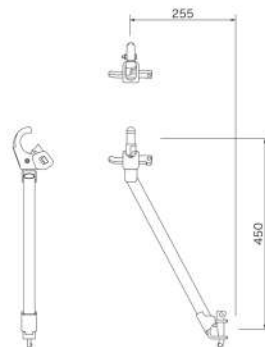


腕木強化の荷重試験



支柱強化の荷重試験

強化方づえ



通常の布材に後から取り付け可能、床付き布枠の掛かった状態でも簡単に取り付けられます。

型 式	質量(kg)
XG2545S	1.5



床付き布枠を掛けた状態でもハンマー1本で簡単に着脱可能

1 高層足場で部分的な補強が必要な場合も強化方づえで簡単に支柱強化。

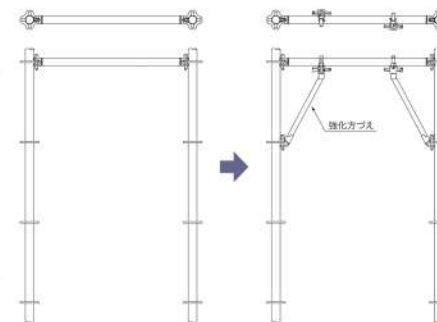
板設工業会システム承認

地上よりの最上部分が31mを超えた場合、従来は超えた高さ分の足場下層部を単管・クランプで2本組にする面倒で邪魔な補強が必須でした。これが、平成27年7月1日の労働安全衛生規則改正により、支柱が強度を有する場合は組上げられる高さ特に制限がなくなりました。

アルパトロスは1支柱の許容座屈強度が強く、基本部材のみで構成される通常スパン部は支柱の補強なしで45m以上の足場設置が可能です。*

ただし、梁枠開口を支持する支柱や階段設置部、荷受けフォーム等の取り付け部は部分的に支柱の強化が必要になります。アルパトロスは強化方づえの取り付けにより簡単にこの補強を行うことが可能です。しかも床付き布枠を掛けた状態でも簡単に取り付け可能ですので、RC・SRC新築工事等では躯体の進捗に応じて必要な時点からの取り付けも可能で経済的にも優れます。

見た目すっきりし、メッシュシートや壁つなぎを既に取り付けた支柱でも簡単に取り付けられ、コンパクトな形状で600mm幅の足場でも通行に支障をきたしません。1種類の強化方づえで全ての足場幅に取り付けできるので便利なおうえ、在庫負担も少なくすみます。



* 使用する機材・足場の組立方法及び、積載荷重の条件によって変動するため目安となります。



高強度、高信頼性の緊結部

8mm厚のプレートと白心可鍛鋳鉄の布材金具

くさびは2〜3回の打込みで十分な緊結力が発揮され、また振動などの予測外の力にも強い構造です。

布材のコの字金具には韌性に優れた白心可鍛鋳鉄を採用。緊結力、耐久性、施工性にベストな形状が実現されました。



頑丈設計。経年使用にも安心

繰り返し使用による摩耗に強く、
長年使っても安心の設計

アルバトロスの緊結部は経年使用で繰り返し使っても必要な緊結強度が維持されるように設計されています。

強靭だけでなく耐摩耗性能も要求されるプレートは8mm厚を採用。曲がりにくく耐久性も向上しました。



広い作業スペースの 快適空間を提供

内側に邪魔な補強がなく、
1層高さは1800mm

1層の高さは1800mm。男女含めた日本人の体格に最も適した高さです。通行と建物の施工作業の両方に快適な環境を提供します。もちろん足場の組立・解体にも最適の高さです。

足場内部に補強がないため900幅で枠組足場1200幅と同じ広さの感覚。



施工性大幅アップで作業コスト削減

架設・解体作業がスピードアップ

効率的で安全な手すり先行工法が標準仕様なため、先行手すりと筋かいの取り付けが同時にできます。組立時はもちろん、解体時に特に大きな工数削減が実現されます。基準層の支柱は2層分高さのL3600mmタイプもあります。

■ 足場設置コスト比較表 (2015年 大手レンタル会社のデータによる)

	アルバトロス	枠組+先行手すり枠
労務費	約50%減	
資材費	約5%増	
運搬費	約40%減	
総費用	約25%減	

(現場条件等により異なる場合があります)



手すり先行工法が標準仕様・標準工法 (改正安衛則適合品)

先行手すりが標準部材。効率的に安全工法が守られます

従来の枠組足場と異なり、先行手すりが標準部材となっており、筋かいの機能も有しています。作業効率に優れた手すり先行工法が高い安全性を約束します。

工事内容に応じ、布材を手すり、中さんとして建物側に設置することも可能です。



部材は軽量・コンパクト

軽量・省スペースで現場の効率化、輸送コストも削減

支柱は建枠に比べコンパクトな形状。
組立・解体時の置ききも小さなスペースで可能です。

幅をとる部材がないため、マンホールや仕上げの狭い戸口からの出し入れが容易です。

枠組足場の手すり先行工法と比べ単位面積当たりの重量は大幅減。
輸送コストの削減が図れます。



枠組足場の簡単さと単管足場の自由さ

簡単手順で組み方自由自在

建地から布・コロバシは四方に伸ばせますので入隅・出隅の多い躯体にも枠組足場のように縁を切ることなく、X方向・Y方向に足場を連続させたまま設置することが可能です。

建地(支柱)と布・コロバシはくさびの打込みによりしっかりと緊結されます。ラチェットレンチでの大量のクランプ締めが必要だった単管足場と比べ工数が大幅に削減されます。

GLでレベルと通りを出せば後は枠組足場のように手順通り組立てるだけ。単管足場のように継ぎ足すパイプの長さを考えたり、各層ごとにレベル・鉛直を調整する必要がありません。



突起や隙間のないワイドなステージが簡単に

支柱の連結ピンはワンタッチで取外し可能

床付き布枠は支柱部をまたいで掛けることができ、突起や隙間のない広いステージが簡単に設置できます。

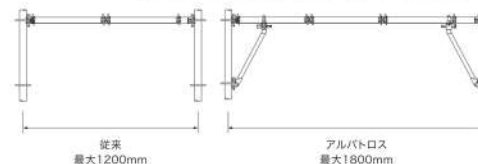
支保工として使うときは大引受ジャッキを直接挿入することが可能です。

ステージの外周には先行手すり・二段手すりが簡単に取付けられます。



従来の棚足場(ステージ)は足場板を掛けるコロバシ材(腕木)は1200mmまでしか使えませんが、オプション材の強化方づえを使用すると最大1800mmまで可能になります。

支柱や布材等、部材の節約になるとともに組み手間も大きく削減できます。





マルチパーパス

拡張性

支柱、布材、先行手すり、この3種類の基本部材の組合せと、それに若干のオプション材・周辺機材を組合せるだけで、実に多様な目的に使うことが可能です。

作業目的の足場、ステージとしてはもちろん、同じ部材で荷受構台や支保工と、現場の工程・局面に応じ多目的に使えます。



3次元的組立

拡張性

アルバトロスの枠組足場と異なる大きな特長、それは支柱を中心に、布材、先行手すり、布板を90度毎に4方向に組み立てていくことができることにあります。さらには縁を切ることなく曲面に対応できる専用部材もあり今までに考えられなかった足場へと発想を広げることができます。

先行手すりを兼ねた筋かいがX・Y両方向に取り付けられことによって、立体的で安定した構造を自由な寸法で組み立てることが可能です。



作業スペース下に大きな空間の確保が簡単

拡張性

アルバトロスには梁枠、荷重受け梁や強化方づえを用いて必要な場所に作業ステージを設け、下部空間にスペースを設け通路や材料置き場等にするための機材が豊富です。



大平面の移動式ステージも簡単

拡張性

従来は軽天作業台を連結して行っていた天井の設備工事や仕上げ作業にも使用可能。軽天作業台の届かない高さにも縦横必要なサイズに合わせて組立てできます。

全ての部材はコンパクトサイズで小さな部屋内の作業にも適し、解体した部材の搬出は乗用エレベーターでも簡単です。



単管・クランプを大幅に削減

作業性

単管足場はもちろん、従来の枠組足場では3次元的な構造や曲面への対応は、枠組の各列をつないで一体とするために大量の単管とクランプが必要でした。

アルバトロスの3次元構造は布材と先行手すりを支柱プレートの直交方向に取り付けていくだけ。単管とクランプを大幅に減らせるとともに、組み手間も大きく減らすことができます。

※ 計画や組み立てにあたっては各用途の組立基準・使用基準に従って正しく行ってください。
また必要に応じて強度計算を行い、安全性を確認して設置してください。



アルバトロスの支保工。くさび式の専用システム支保工と同様にX・Y方向に自由なピッチで割付け可能。
さらに支保工も安全な手すり先行工法で組立・解体が可能。



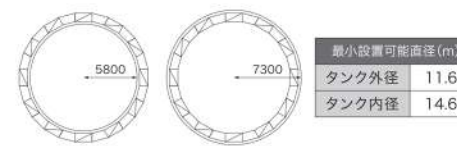
アルバトロスの支柱は連結ピンを取り外すとステージがフラットに。また、支柱プレートを跨いで床付き布わくを敷設できるので、隙間のない設置が可能。
※写真は組立て作業中



物流倉庫工事にてスラブにレベルを合せて設置したフォークリフト用の荷受構台。敷鉄板敷設。
大引受ジャッキを使用して外周に手すりを簡単に設置することが可能。



LNGタンクに設置したアルバトロスの円形足場。専用の円形足場用先行手すり、伸縮手すりをを用いることによって全て手すり先行工法で組立解体が可能。



養生用の仮天井の上部状況。上側の天井作業用ステージまでの空間も広々。



営業しながらホールの天井を改修する工事。支柱4本による柱部分を除けば大きな空間を残すことが可能。工事用のステージの下に養生用の仮天井を設置。

※ 一部試験施工の内容を含みます。

ALB足場

2 柵足場

縦横自由自在、立体的に組める自由がもう一つのメリットです。

ステーシングを置く場合に枠組足場の建枠は1方向にしか組み進められないため梁間方向は単管・クランプで連結するしかありませんでした。

アルバトロスは90度4方向に布材や先行手すりを取り付けられるため立体的な組立てに優れます。

もちろん単管・クランプの大筋かいは不要です。

さらにはアルバトロスの支柱は450mmピッチでプレートがあり、その任意の高さで腕木を取り付けることができます。

このことにより布材、先行手すりを4方向に組み立てられるとともに、内部足場の作業床のレベルを屋根や天井の形状に合わせて縦横状に設置することが可能になります。



天井の曲面に合わせて縦横状にも設置可能

3 構台

アルバトロスは最大1支柱33.5kNの支保工としても使用可能。荷受構台を足場と連結させて設置することが可能です。物流倉庫等の屋根材フォーミング機の据え付けや、フォークリフト用の荷受構台としても十分な能力があります。

※アルバトロスの構台には移動式クレーンやハイユニックレーン等のブームを有する起重機の設置はできません。



構台の天端の高さをスラブレベルに合せ、フォークリフト用の荷受構台とした例。

構台床の敷鉄板の大引として100角鋼管を利用。

全ての支柱に大引受ジャッキを装着しても、外周部には支柱・布材で手すりを設置することが可能です。

支柱の設置ピッチや床材、天端の大引・根太の種類を変えることによって軽量級から中量級まで目的用途に応じた多彩な構台をつくる事が可能です。

しかも、つなぎの単管やクランプはほとんど不要ですので組立作業も効率的です。

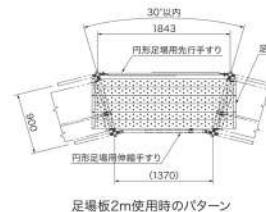


梁枠併用で広い開口確保

4 アルバトロス曲線対応システム

単管・クランプを全く使用せずに、円形タンクの外部・内部、Rのあるデザインの建物に連続した足場の設置が可能です。見た目もすっきり美しく、メッシュシートも1.8mタイプが隙間なく張れます。

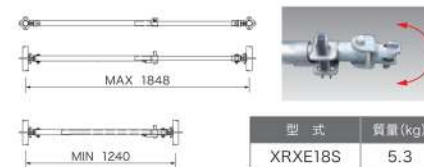
曲線部も、もちろん手すり先行工法で安全に組立・解体作業が行えます。



足場板2m使用時のパターン

■ 円形足場用伸縮手すり (仮設工業会認定品)

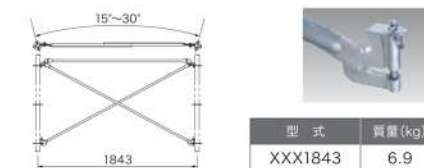
高端回転式くさび緊結金具・伸縮もくさびでワンタッチロック。角度は30°内で自在に調節可能



型式	質量(kg)
XRXE18S	5.3

■ 円形足場用先行手すり (仮設工業会単品承認)

直線部用と同じ形状で見た目もすっきり。メッシュシートもきれいに張れます。角度は30°内で自在に調節可能



型式	質量(kg)
XXX1843	6.9

5 ローリングタワーももちろん手すり先行工法。枠組式ローリングでは不可能なワイドなタワーも可能です。

強化方づえを使えば安定性に優れたワイドなローリングタワーをつくることも可能です。最大1800mm幅まで可能で、しかもアルバトロスローリングタワーは従来型のローリングタワーの一番の弱点であった組立・解体時の墜落リスクの回避、安全帯取り付けの対策も、安全・簡単な手すり先行工法で簡単に解決できます。

※強化方づえは全層又は最上層の腕木への取り付けが必要です。

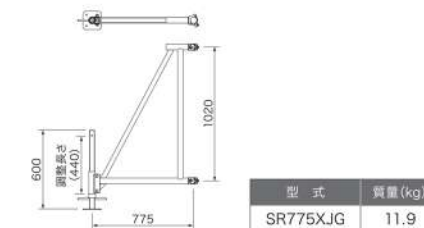


ワイドな1.8m x 1.8mのローリングタワー



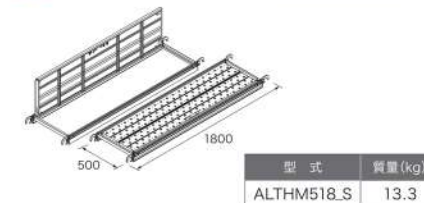
ローリングタワー使用時の安定性検証
傾斜実大実験

■ アウトリガー

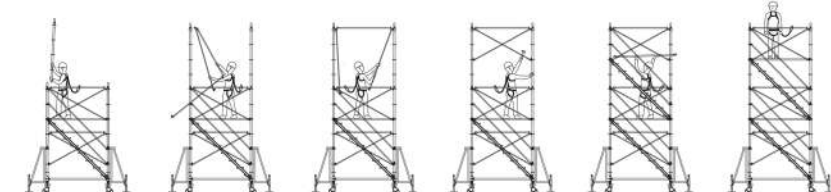


型式	質量(kg)
SR775XJG	11.9

■ 全開閉式床付き布わく (仮設工業会認定品)



型式	質量(kg)
ALTHM518_S	13.3





拡張性

豊富な部材と組立て方の選択で 多様なニーズに対応可能な支保工システム

仮設工業会システム承認

安全性と機能性と強度のバランスに優れた新発想のアルバトロス。足場のみでなく型枠支保工としてもその特長を発揮することができます。使用する支柱、布材や先行手すりりは足場と兼用できるため無駄がありません。

従来のくさび式支保工は強度優先に設計されていたため、一般的な建築工事の軽・中量支保工の用途としては作業用足場や通路としての機能には優れませんでした。また建築支保工には4トン、5トンの能力はオーバースペックで、その分、部材は太くて重く、扱いも容易ではありませんでした。

アルバトロスの支保工は軽量な部材で、目的用途に応じて安全性・機能性・強度をバランスよく使い分けることができます。もちろん手すり先行工法による組立・解体も可能です。

型枠支保工の種類	使用部材または補強材と組立て構成	1支柱あたりの許容支持力	手すり先行工法の可否
S	四角塔式型枠支保工	33.5kN	不可
	べた支柱式型枠支保工		
A	四角塔式型枠支保工	26.9kN	可能
	べた支柱式型枠支保工		
B	四角塔式型枠支保工	22.7kN	可能
	べた支柱式型枠支保工		
C	四角塔式型枠支保工	25.0kN	不可
	べた支柱式型枠支保工		
K	強化方づえと壁つなぎを用いた型枠支保工	23.5kN	可能

※ 照査水平荷重によって5.5m未満になる場合があります

1 手すり先行工法で組立・解体できる支保工システム

従来の多くの専用支保工は、手すり先行工法ができないことが組立・解体時の一つの安全上の問題でした。また壁面や通路部分には手すりや中さんが必要ですが、これについても対応は簡単ではありませんでした。また枠組式の支保工も足場用の先行手すり枠を支保工の筋かいとしては使用することができないため、手すり先行工法は困難でした。

先行手すりが筋かいを兼ねるアルバトロスは、これらの問題を簡単に解決するとともに、手すりと筋かいが一度で取付け・取外しができるという作業性の大きなメリットがあります。

2 強度を優先しなければならない場合は最大1支柱あたり33.5kNが可能

アルバトロスは支柱に対し大きな強度が求められる場合には、同じ部材を使用して組み立ての構成内容を変えることで対応することが可能です。同じ現場、同じ部材で軽量級と重量級の支保工を設置することは従来は困難でした。

1支柱33.5kN仕様のアルバトロス支保工は、大引に十分な強度があれば@900x@900のグリッドで厚さ1.5メートルのスラブを受けることが可能です。

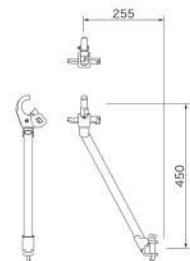
※ 1支柱33.5kN仕様のアルバトロス支保工の組立・解体は手すり先行工法ではなくなります。

伸縮斜材



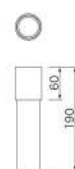
型式	質量(kg)
XSB2337	5.3
XSB1178	3.3

強化方づえ



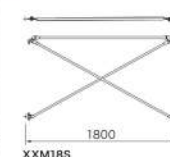
型式	質量(kg)
XG2545S	1.5

カラー材(調整用)



型式	質量(kg)
XPL60	0.64

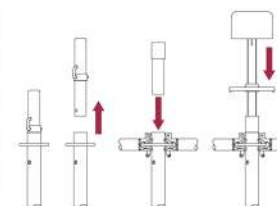
先行手すり



型式	質量(kg)
XXM18S	6.8
XXM15S	5.9
XXM12S	5.2
XXM09S	4.4
XXM06S	3.8

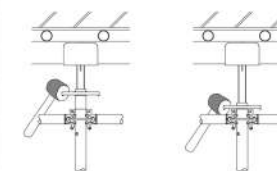
連結ピンの取外しと調整カラーの使い方

アルバトロス支柱の連結ピンはワンタッチで脱着可能。大引受ジャッキや調整カラーがそのまま使えます。

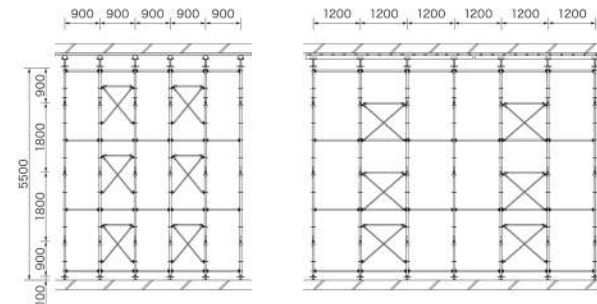


アルバトロス支保工で型枠の直受けを行なう場合に、調整カラーを用いると下側からのセットハンマーによる荷重解除作業が容易になります。

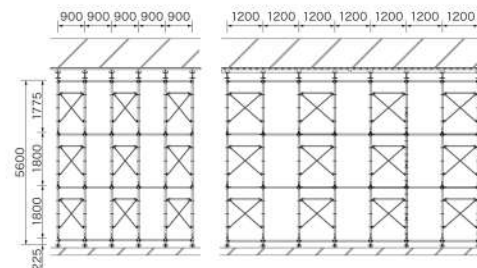
調整カラーあり 調整カラーなし



べた支柱式支保工 22.7kN仕様 (X構面・Y構面とも先行手すり)の設置例

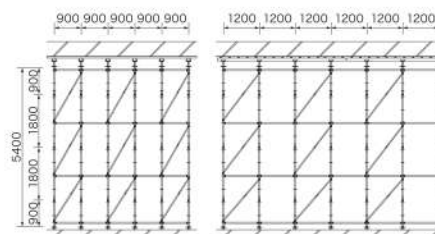


べた支柱式支保工 33.5kN仕様 (X構面・Y構面とも先行手すり)の設置例

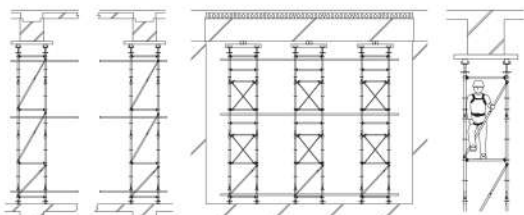


※ 33.5kN仕様は必要な斜材本数が22.7kN仕様、26.7kN仕様より増える場合があります。

べた支柱式支保工 25.0kN仕様 (X構面・Y構面とも伸縮斜材)の設置例



四角塔式支保工 26.9kN仕様 (X構面先行手すり、Y構面伸縮材)の設置例



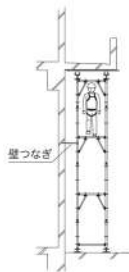
アルミサポートの届かない高さのPC梁や長大スパンの
スパンクリート受けの支保工としても最適です。

伸縮材は梁単独の1列支保工の
場合に斜材設置面を通り抜けること
が可能です。

強化方づえと壁つなぎを用いた支保工 23.5kN仕様 (X構面は先行手すり)の設置例

既存の外部足場に強化方づえを取り付けて
簡単にキャンチスラブや底の支保工とする
ことができ、通行も容易です。
存置期間の終了後は、強化方づえは取外して
転用可能なので経済的にも優れます。

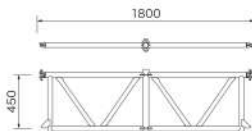
※ 強化方づえによる支保工は壁つなぎの併用が
必要です。壁つなぎは垂直方向2層以内・水平
方向5.5m以内。
(但し照査水平荷重+風荷重の範囲内)



作業の効率化+通路確保+支保工下の有効利用に 画期的な新機材「荷重受け梁」

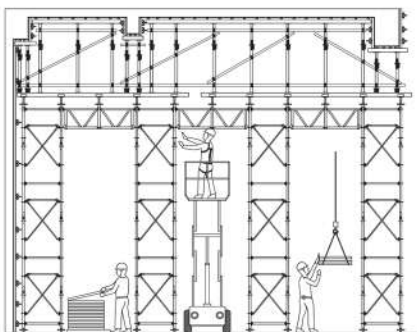
アルマトロス支保工の上に在来の型枠支保工を組立てる場合に、パイプサポートを
受ける支保工の天端は@900x@900とし、下側のアルマトロス支保工を大幅に効率化
できる部材です。
隙間なく支柱を配置する従来のべた支柱式支保工は、例えば一般的なスラブの場合、
支柱の能力の22.7kN~26.9kNに対し2~3割の500kg~700kgしか働いておらず、
大きな無駄がありました。

■ 荷重受け梁

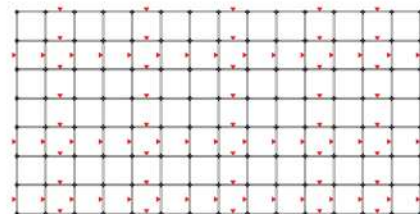


型式	質量(kg)
XAM18S	17.0

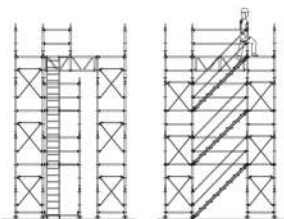
※質量は連結ピンを含まず。連結ピンは取付け可能



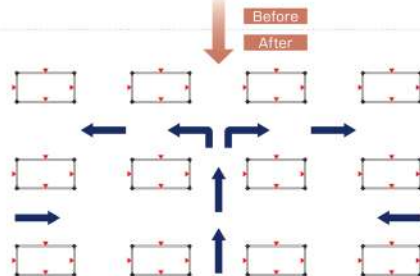
支保工の組立解体中にも設置場所の奥まで簡単に打けるので、部材小
運搬や仮置きがスムーズに行えます。またステージに開口を作れば、
解体した型枠材料の荷おろし、搬出もスムーズです。



従来のべた支柱方式で@900グリッドで設置した全ての層の支柱・
布材・斜材の配置図。(赤三角は斜材位置)



1800スパンのスペースが多くできるので、階段で踊り場付きの昇り
やすい昇降設備も簡単に設置できます。



荷重受け梁を用いた場合の天端より下の配置図。
存置期間中もX・Y両方向に自由に通行や材料の搬入が行なえ、全体
工期の短縮にもメリットがあります。

施工実績 Gallery



大規模物流センター 長大躯体でも大組み・大払いで効率的な施工が可能



高さ80メートル超のタワーマンション 強化方づえ使用 B2階からの立ち上がり
の足場部分は最高高さ約90メートル



ショッピングモールの内部吹抜け 円形用足場はRの内側にも設置可能



高速道路橋脚 上部工のつりだ足場SKパネルと組み合わせ設置



支保工のステージ 作業床は段差なく手すり付き昇降設備も容易
在来型枠支保工と組合せて設置し、存置期間後は設備工事用のステージとしても
無駄なく利用可能



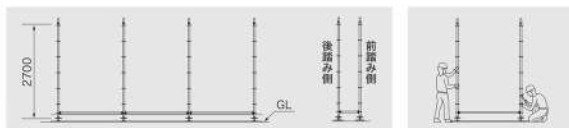
高速道路橋脚 上部工のつりだ足場SKパネルと組み合わせ設置



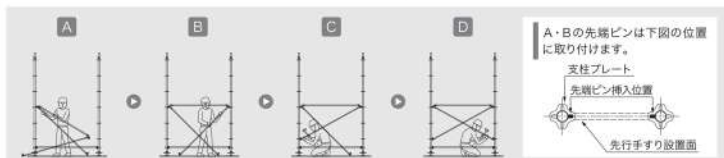
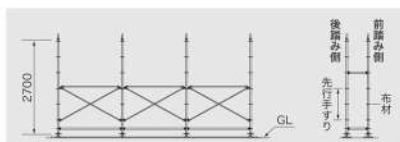
支保工 支保工も手すり先行工法で安全組立て

足場基底部・1層目

- 1 ① 敷板の設置
基礎の支持力が十分であることを確認します。
- 2 ジャッキベースの配置
敷板に釘等で固定します。
- 3 支柱の設置
最下層の支柱は根がらみプレートのある2700、1350、900を使用します。
- 4 根がらみ(布材)の設置
布材を軽く打ち込み水平器でレベルを調節します。緊結部くさびが正しく打ち込まれている(緩みがない)ことを確認します。



- 2 ⑤ 足場の後踏み側の桁面に先行手すりを設置

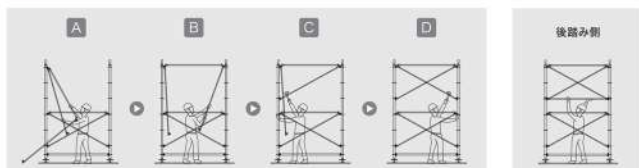


先行手すり取付方法

※先行手すりは作業員から見て左側が手前、右側が奥になるよう取り付けます。

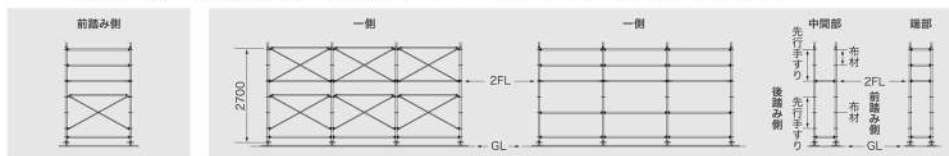
- ① 先行手すりの斜材先端ピンを支柱フランジ穴に入れます。
- ② 手順①と反対側の斜材を持ち上げ、先端ピンを支柱フランジ穴に入れます。
- ③ 筋かい部分の一方を支柱プレートに取り付け、くさびをハンマーでたたいて緊結します。
- ④ 手順③と反対側の斜材を支柱プレートに取り付け、くさびをハンマーでたたいて緊結します。
- ⑤ 緊結部くさびが正しく打ち込まれていることを確認します。

- 3 ⑥ 足場の後踏み側の桁面に2層目の先行手すりを設置
緊結部くさびが正しく打ち込まれている(緩みがない)ことを確認します。
- 4 ⑦ 床付き布枠の設置

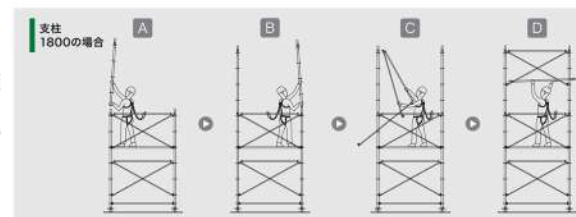


2層目

- 5 ⑧ 2層目足場の前踏み側の桁面の布材設置
緊結部くさびが正しく打ち込まれている(緩みがない)ことを確認します。
2層目の組立てが終了した時点で最初の壁つなぎを取付けてください。 ※壁つなぎについては風荷重の算定に従って適正に設置してください。



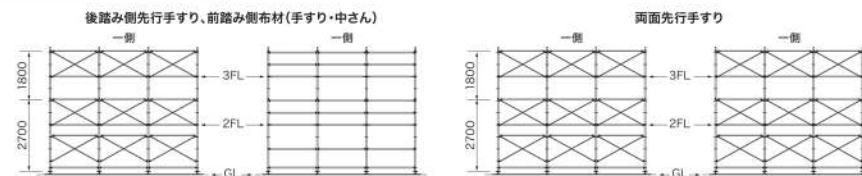
- 6 ⑨ 3層目分の支柱設置
支柱は1800または3600を使用します。抜け止めを正しくロックします。
- ⑩ 足場の外側面に3層目の先行手すりを設置
- ⑪ 3層目の床付き布枠の設置
緊結部くさびが正しく打ち込まれている(緩みがない)ことを確認します。



3層目以上

⑫ 3層目以上の足場の組立は、作業手順 ⑤・⑥ の繰り返しとなります。 ● 解体は作業手順を逆にを行います。

外部足場の標準的な設置方法



※後踏み側、または後踏み側・前踏み側の全層・全スパンに先行手すりを設置してください。

コーナー部・入り隅・出隅の割付参考例



- 各システムの設置・使用方法に関しては各組立基準、使用基準を参照してください。
- 一般事項については仮設工業会「くさび緊結式足場の組み立て及び使用に関する技術基準」に従ってください。
- 足場板は支柱との距離が12cm未満になるように配置して固定してください。
- 風荷重については通常の足場と同様にご計算ください。
- 法規上は本製品はその他鋼管足場(単管足場)に分類されます。
- 計画・設計・強度計算、その他の技術的なお問い合わせは弊社各支店までお問い合わせください。

製品の仕様・外観については予告なく変更場合があります。

安衛則改正により31メートル以上の足場も2本組み不要に

平成27年7月1日に新しい労働安全衛生規則が施行されました。この改正により従来の制約条件であった「強度の有無に関わらず、高さ31mを超える単管(類)の足場は最高部から31mを超える部分を必ず2本組みにしなければならない」基準が緩和され、それぞれの足場の実験データに基づく支柱許容荷重に応じて、可能な高さまで組めることになりました。
足場条件により差異はありますが、アルパトスは支柱の補強なしで45m以上の足場の設置が可能です。また、自重の大きくなる梁枠開口部や荷受けフォーム等の部分は簡単に後付けできる強化方策で必要な部分、必要な期間のみ強化することが可能です。

○労働安全衛生規則 第五百七十一條

三 建地の最高部から測って三十一メートルを超える部分の建地は、鋼管を二本組とすること。ただし、建地の下端に作用する設計荷重(足場の重量に相当する荷重に、作業床の最大積載荷重を加えた荷重をいう。)が当該建地の最大使用荷重(当該建地の破壊に至る荷重の二分の一以下の荷重をいう。)を超えないときは、この限りでない。

○厚生労働省 労働基準局長 基発0331第9号7 第571条関係について (3) 抜粋

また、鋼管にフランジ、フック等の緊結部を溶接することにより、緊結金具を使用せずに組み立てることができる単管足場では、当該足場を組み立てた状態でその支持力試験を実施した結果から、建地に破壊に至る荷重の二分の一以下の荷重を許容支持力として示されており、これを最大使用荷重として用いて差し支えないこと。この場合、布材、補剛材等の使用条件に応じて支持力結果が異なることから、当該布材、補剛材等の使用条件に応じた最大許容荷重を用いること。